

「もったいない町民大会」開催

薄市小6年生による研究発表



ました。特に「食べ残しから考えるもったいない」の発表では、自分たちの食べ残しで貧しい国の子どもたちが救えることにまで踏み込み、食料の大切さを訴えるよく考えられたものでした。

後半の柳澤氏の講演では、古くに敷設されていた森林鉄道と観光資源との結び付けについて話され、同氏が特にくわしい吉田松陰・宮部鼎蔵^{ていぞう}の津軽での足跡や、日本初の津軽森林鉄道軌跡の紹介、それらと絡めた東北新幹線来訪客に対する観光ルートの提案といったことが語られました。

多くのスライドが流れた中には、時代を感じさせる写真が数多く登場し、会場からは笑い声や懐かしむ声が漏れていました。

1月30日(日)に今年度の「もったいない町民大会」が開かれ、会場のパルナスには約300人の聴衆が訪れました。

大会では、薄市小の6年生が1学期から研究を重ねてきた“データから考えるもったいない”について、その成果を発表。また、「郷土の歴史と観光発掘」と題して、「小泊の歴史を語る会」会長の柳澤良知氏の講演が行われました。

おなじみの横山ひできさん(町ふるさとイメージアップ大使)が総合司会を務め、大会がスタート。薄市小の発表は4グループによるもので、それぞれ「待機電力から考えるもったいない」「学区内清掃から考えるもったいない」「レッドリストから考えるもったいない」「食べ残しから考えるもったいない」といったユニークなテーマを設定してい

柳澤良知氏による講演



生徒に切符を手渡すアテンダントの大川さん

津軽鉄道 中里中へ「合格切符」贈呈

津軽鉄道が1月28日(金)、受験生の合格を願って中里中3年生82人に“合格切符”を贈呈しました。

これは、2月1日から運行されている「合格列車」運行に先駆け、志望校合格を目指しががんばっている受験生に「合格へ向けて走り抜けてほしい」ということから、津軽鉄道沿線の中学校3校に贈られたもの。切符に自分で「5」を書くようになっていて、「5をかく」→「合格」という願いが込められたユニークな切符でした。

贈呈には、奥津軽トレインアテンダントの其田純子さん、大川聖未さんの2人が訪れ、津軽鉄道の紹介や、合格切符の意味・願いが話されたあと、生

徒一人ひとりに切符が手渡されました。

生徒を代表して青山奨也くんが「受験まで残り1か月。第1志望の高校に合格するよう勉強に励みます。本当にありがとうございました」とお礼の言葉を述べ、生徒たちは合格を期して切符に「5」を書いていきました。

今回の贈呈に訪れたアテンダントの其田さんは「みなさんにぜひ合格してもらって、合格したら津軽鉄道で通ってほしいと企画したもの。だじゃれで笑っちゃうような切符だが、受験会場でリラックスできるお守りとして使ってもらえれば」と、生徒たちの合格を祈っていました。



合格への願いを込めて切符に「5」を書く生徒

